

CONTENTS

2020年はすべてがこれまで体験したことのない、戸惑いと不安に満ちた年になりました。子どもや子育てを取り巻く環境も激変しました。休校や外出自粛、在宅ワークなどは、時間や場所の制約よりもむしろ、子どもたちの鋭敏な感性に影響を与えていることが問題です。

「子どもは社会の宝であり、未来そのもの」と私たちはキッズデザイン宣言で表明しました。今こそ、その早急なアクションが必要な時と考えます。

そのためにはあらゆるステークホルダーの協働が欠かせません。未来の主演である子どもたちが自らの意思で次の社会をつくっていけるように、私たちは結集し、その環境づくりに取り組む必要があります。

巻頭特集

- 2 | 新型コロナウイルスと子どもたち
～子どもたちの声が聞こえていますか

第14回 キッズデザイン賞

- 8 | 総評
- 9 | 最優秀賞
- 10 | 子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン
(優秀賞・奨励賞・特別賞・入賞)
- 20 | 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン
(優秀賞・奨励賞・特別賞・入賞)
- 36 | 子どもたちを産み育てやすいデザイン
(優秀賞・奨励賞・特別賞・入賞)
- 51 | 実施概要
- 52 | 審査委員からのメッセージ
- 56 | キッズデザイン協議会 概要
- 57 | キッズデザイン宣言
- 58 | 受賞団体名索引

新型コロナウイルスと子どもたち ～子どもたちの声が聞こえていますか

新型コロナウイルスによる長期の休校や外出自粛の波は、
子どもの心理や生活に大きな影響と変化をもたらしている。
いま、子どもはいかなる状況にあり、どう考えているのか、
私たちはそれにどう向き合うのか、
専門家の取材を通じて、その本質を探る。



アンケートを通じて子どもたちの本当の声がみえてきた
国立成育医療研究センター「コロナ×子ども本部」ホームページより

ストレス反応はこれから、 顕在化する可能性がある

「学校のコロナ対策に参加したい、決められたことしかししないのはおかしい」「大人は夜友達とご飯食べに行ったりしてみたいなのに、どうして子どもだけダメダメと中止ばかりになるんだろう?」「大人だけで色々議論しないでこどもの気持ちも聞いてください」……。
これらの言葉は、コロナ×子どもアンケート「おとなたちに伝えたいこと」の第2回中間報告からの抜粋である。この調査は、国立成育医療研究センターの研究班が子どもや保護者を対象に第1回を緊急事態宣言中の4～5月、第2回を学校再開後の6～7月に実施したもので、現在も継続実施中である。いま、子どもたちは何を感じ、考え、発信しているのだろうか。アンケートを実施した、国立成育医療研究センターの社会医学研究部研究員、半谷まゆみさんに話を聞いた。

「緊急事態宣言の時期の、子どもたちが学校へ行けない、友達に会えない、という状況は抜け出しつつありますが、その後も親子ともにストレスは続いていると考えています。以前の震災の時も、発生後少し時間が経ってからストレス反応が出ていることがわかっており、コロナでも同様の状態になると予測しています。むしろ、コロナは現在進行形の災害という面で特別なものなので、十分に注視していく必要があります」。調査結果を見ると、子どもの年齢ごとにストレスの受け方も異なっているという。「小さい子どもは家庭の影響が大きく、親のストレス症状が影響しています。未曾有の事態に直面しているなかで、親が自らの心の負担から子どもを怒鳴ったり、叩いたりしてしまった、といった反省の声もありました。子どもはその変

化に敏感に感じ取っているでしょう。年齢が上の子どもは、早く学校へ行きたい、コロナが怖くて学校に行きたくない、の大きく2つのパターンに分かれるようです。どちらにも共通するのが、こうしなさい、と大人に押し付けられている、という感覚を持っていること。そこに不満を持っている子どもが多いことがわかります」。経験したことのない世界のなかで、子どもが何を感じているか、どうしたいと思っているか、をもっと深く知ることが大切、ということだ。アンケートでは子どもたちからは、「コロナのことを考えると嫌な気持ちになる」「ひとりぼっちを感じる」といった意見があるというが、半谷さんは、実は親は子どものストレス反応を過小評価している、とも語る。



国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
社会医学研究部 研究員

半谷 まゆみ

子どもたちの自主性こそが 最善の解決策

「一番近くで見ている親が、子どものストレスにしっかり気づけていない感じがします。子どもたちは親にゆっくり話を聞いて欲しいと思っていても、親も今の状況に対応するだけで精一杯で、子どもから見ると隙がないように感じてしまう。難しいことだとは思いますが、もっと心にゆとりをもって、子どもの思いや不安を受け止めてあげることです。日常の中で子どもが話しかけられる隙をつくってあげることも大切です」。
さらに休校期間があった影響から、学習への不安も募っており、「授業の進み方が早い」「授業時間が長い」といった悩みも聞こえてくる。授業ばかりではない。年間行事や修学旅行などのイベントの機会が奪われていることは、子どもたちにとって「とても大きな事件」なのだ。〇年生になったら〇〇の行事、といった期待感は子どもにとって大切なもの。それなのに、勉強だけを押し付けられているのは不満、と感じてしまうことも多い。
もうひとつの課題が身体性の問題、つまり運動不足から来るさまざまな影響だ。半谷さんは言う。

「身体的活動の機会が減っていることは間違いありません。体を動かす時間が減っている分、スクリーンタイム(テレビ、スマホ等を見ている時間)は長くなっています。身体の発育のためには遊ぶという行為は重要なステップですから、今後の発育発達に影響がでるかもしれません。また、肥満や痩せの問題も深刻です。運動不足による肥満もありますが、逆にそれが怖くて過剰なダイエットに走る子もいるようです」。
我が国でも、若者のうつや自殺は大きな社会問題になっている。今回のケースでも、無気力な書き込み、小学生でも“死”や“自殺”という言葉を使っている子どもがいるという。ニュースやネットにはネガティブな情報が溢れ、ついそれに眼が行ってしまいがちになる。調査では、自傷他害の割合が増加傾向にあるという結果もあり、極めて深刻な事態とも言える。
子どもの声を聞くこと、一緒に考えて考えること。それが今は最も重要なことである、と半谷さんは語ってくれた。
「ある中学校の話です。休校中に運動会中止が決まったのですが、



©子どもOS研究会

子どもたちから、学校のコロナ対策に僕らも参加させて欲しいと要望がありました。大人の社会は違うのに、子どもは押し付けられているだけに思えるから話合いをさせて欲しい、と意見を出し、結果、対策をとった形で運動会は実現できたそうです。こうした柔軟さが大人にも試されているのではないのでしょうか。これまで、社会には子どもの声を聞く明確な仕組みがなかった。現在のような緊急事態にあっても、それが制度化されていない。アンケートの定量的な

結果も大事ですが、ここに書き込んでくれた子どもたちの一言、一言が心に響くはず。その声を社会づくりに活かす仕組みがつくれるとよいですね。
いま、自粛によって学校に行っていない子どもが全体の2%、「行きたくない」子どもを入れると全体の3分の1にのぼるという。このデータを私たちはどう読み取るべきなのか。今こそ、次世代の主役たる子どもたちと真摯に向き合い、共に考える時なのである。

キッズデザイン協議会によるアンケート結果から

協議会でも生活者を対象に、新型コロナウイルスが発生した後、「お子さんや周辺の子どもの変化や気になること」「あなたご自身が、家事／育児／働き方などで変わったこと」を聞いた。
以下は回答からの一部抜粋である。

子どものこと

- ・たまに公園へ散歩に行こうと誘っても、「いい、家にいる」と外出を渋るようになった。(小学校低学年)
- ・報道を見て、感染して亡くなる方もいると知ると、「コロナが嫌い」と泣くこともあった。(小学校低学年)
- ・子どもも自然とコロナに関する知識を得て、withコロナで生活できていると思います。(乳幼児)
- ・「コロナが収まって、みんなのお風邪が治るまで我慢だね」と、親が伝えたわけでもなく、子ども自身が理解するようになっていた。(乳幼児)
- ・自宅に居られる時間が長く、子ども自身の学習スタイルを見つけたように思います。(中・高校生)

あなた自身のこと

- ・テレワークの期間は、子どもも私も自宅で一緒に過ごせたので、家族での会話が増え、共通の話題も増えたように思います。
- ・夫も在宅勤務になり、家事の分担ができるようになったのは良かったです。
- ・いつまで頑張ればいいのか終わりが見えないので、子どもに対してうまく励ましたり気を逸らすことが難しかった。
- ・コロナで何が一番大切かを考えさせられ、子どもとの時間がとても大切になりました。
- ・離乳食が始まったばかりの時期に、離乳食講座が開催中止になり、情報源がネットや本だけになったのは辛かったです。

いつも通り、を今こそ考えよう ～カラダとココロ、子育てについて

さまざまな制約が発生するなかで
日常の暮らしを守り、取り戻すための工夫や取組が進んでいる。
身体を動かすこと、遊びを創造すること、子どもを守る取組、
そのすべてが子どもとの時間を豊かにするものになる。

自宅で寝転がったままで

ハードな運動ができる



新型コロナウイルスにコロッと負けない M-kid'sエクササイズ

NPO法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER



「寝たまま M-kid's エクササイズ」は マンションでも安心して、寝ながらできるエクササイズ・プログラムであり、「目指せ心拍数160!」という目標を掲げている。担当する豊福彬文さんは、「心拍数を160近くまであげる必要があります。それなのに寝たままでもそこまであがる。厳しい状況が続いていますが、運動不足な子どもたちも飛びついてくれるようなプログラムを目指しました。マンションでも階下への騒音を気にすることなく汗をかくことができます」と語る。素

材となった「M-kid's エクササイズ」は、2006年に宮崎市教育委員会と宮崎大学の高橋研究室、ダンスカンパニー「んまつーぽす」が共同開発し、市内や県内の子どもたちの健やかな心身を育むための教材として人気だ。豊福さんは、「『敢えて寝たまま』には、騒音対策だけではない、立っている時のように動けないことが楽しい、立っている時にはできない動きができることが楽しいといった効果もあります。こんな環境だからこそ、楽しく身体を動かして欲しい」。

働く環境の変化に合わせて

子育てサービスも変わる

スマートシッター

スマートシッター株式会社



コロナ禍は働く環境と子育ての世界にも大きな影響を与えている。特に休校に伴うシッター希望が増えていた時期があった。スマートシッターはベビーシッターのマッチングサービスで、スマートフォンやPCから簡単にシッターを検索し、写真や動画、他者コメントなどを参考に、自分に合うシッターを選んで予約できる。登録ベビーシッターは、保育士・幼稚園教諭・助産師・看護師などの有資格者が9割であり、研修システムも充実してい

るという。コロナの感染拡大の影響の長期化、急な休園・休校の可能性を鑑み、内閣府によるベビーシッター利用料の助成制度が拡大、期間が延長された。同サービスの特徴的な点は、シッターの特技やスキルを活かした時間の過ごし方の提案を行っている点である。「特技・スキル検索」では、読み聞かせやピアノ、英語やリトミックなど多彩な項目が並んでいる。子育て支援の社会システムもまた進化を続けている。

安全ポイントがわかる

留守番デビューの

子どもの



安心子育て応援サイト 子どもの安全ブログ

セコム株式会社



「子どもの安全ブログ」は、子どもの安全・安心を願う保護者に向け、信頼できる情報を届けるよう2006年2月に開設された。モデレーターの舟生岳夫さんは、「重要なことは、子どもを取り巻く現状を見つめ、具体的な対策を伝えることです。防犯のプロとして、二児の父として傾向と対策をまとめ、わかりやすく届けています。防犯はもちろん、事故防止や防災、健康やネット問題に至るまで多くの問題を取り

上げており、今後もタイムリーな課題を捉えていきたいと思えます」と語る。共働き世帯の子どもも、学校の一斉休校の時期には一人や兄弟姉妹と留守番をするケースが増えた。そのためのアドバイスを記事として展開した。*コロナ禍は働き方や暮らしがりを激変させた。子どもの安全・安心を考えるためのファクターも同時に変わっていくだろう。子どもの安全の指南役としての取組にますます期待したい。

* <https://www.secom.co.jp/kodomo/o/20200507/>

時間をつくる

親子で過ごす

手作り・懐かし遊びで

ASOPPA!

株式会社 フレーベル館



『ASOPPA!』は「子どものあそびがパッと見つかる」をテーマにしたウェブサイトで、折り紙や工作、手遊び、室内外あそび、なぞなぞや間違い探しなどが人気のサイトである。コロナ対応で組んだ特集は、「家であそべる手作り工作アイデア10選!」*。紙コップと風船を使って簡単に作れるクラッカーや不要なタオルを使ってつくるカラフルなスタンプ台など身近なもので楽しむ遊びは親子で協働してつくるにはうってつけのものばかりである。利用者からは、「折り紙やあや

とりなど、作り方や遊び方を忘れてしまっている」「子どもに何か工作したい、これで何か作ってと言われた時に困る」などの声があり、それに応えたものだという。ASOPPA!の目的を同社は、「外出できない時や、移動中や待ち時間の子どもとのやり取りに困っている方、様々な遊びをしてあげたいと考えている方などを対象に開発しました。コロナ禍においても親子が会話をしながら気軽に楽しんでもらえると思います」と話す。

* <https://asotopics.asoppa.com/653/>



大切なことは

大人が子ども目線に戻ること

プレイフル・デザイン・スタジオ/こどもOS

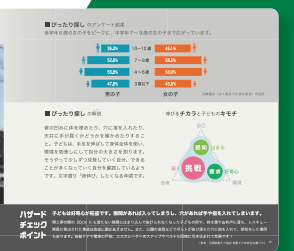
キッズデザイン協議会こどもOS研究会



こどもOS 研究会は、キッズデザイン協議会の調査研究部会として2008年に発足。様々な環境に対する子どもの行為の可能性について、「プレイフル(遊びゴコロ)」と「ハザード」の両面から調査研究を行っている。子どもたちに特有の行為を代表的な22のデザイン共通言語『こどもOSランゲージ』として抽出し、「プレ

イフル・デザイン・カード」としてまとめた。さらに性別・年代別の出現傾向を調査し、冊子『それ、こどもOSです』も刊行。研究会のメンバーである大阪府産業デザインセンターの川本誓文さんは、「コロナ禍でも子どもは遊ぶものです。遊ばせないほうが心理的・身体的な悪影響が大きいと思います。であれば、積極的

にコロナ禍でも遊べる遊びを創作の方がよりプレイフルです。こどもOSランゲージは、そんな遊びを創造するツールにも使えるでしょう。私たち自らが子ども目線を取り戻すことが、子どもの理解への第一歩である。同時に、子どもならではの行為を見つめることで、また些細な子どもの変化にも気づけるはずだ。



もっと知りたい、深めたいを続けよう ～ICTが拓く新たな学習と気づき

オンライン学習の増加は、「自宅でも勉強できる」ようになったことがゴールではない。新たなデジタル時代の到来を加速させた面も大きい。子どもは受け身ではなく、もっともっとポジティブにこのチャンスを活かすだろう。

家族で自宅で、

SDGsや社会課題を考えてみよう

パナソニックキッズスクール
「おうちで学べるコンテンツ!!」

パナソニック株式会社



子ども向けウェブサイト「パナソニックキッズスクール」は2009年よりスタートし、「子どもがかがやけば、未来がかがやく。」をテーマに、学びのコンテンツを学校や家庭に広く提供している。年間300万PVの実績がある人気サイトである。新型コロナウイルスの影響から長い休校期間を過ごす子どもたちのために、キッズスクールの人気コンテ

ントをまとめた「おうちで学べるコンテンツ!!」の提供を開始した。例えば、「SDGsって知ってる?」では17の目標を子ども向けに紹介、ワークシートもダウンロードできる。「ユニバーサルデザインってなんだ?」は同社の商品開発者のインタビューやクイズで疑問を解決する。そのほかにも「エネマネ博士になろう!」「エコ活動にチャレンジ!」など

多様なコンテンツが展開されており、その内容は本格的だ。同社は、「サイトPV数が2020年3月から2倍となっています。特に在宅勤務が始まって、ご家族でサイトをご覧いただいていることが確認できます」。社会を取り巻く多くの課題に対し、子どものみならず親子で考え、実践する貴重な機会を提供するコンテンツである。

同時にサポート

子どもと保護者へ

学習と生活情報を、

Gakken家庭学習応援プロジェクト
マナビスタ

株式会社学研ホールディングス



「マナビスタ」は「学ぶ人」すべてを応援するサイトである。サイトには、「学習の遅れ、新しい生活様式と、お客様の“学習不安”、“生活指導不安”は尽きません。それを軽減し、継続できる学習サービスを提供するとともに、生活リズムを正し、運動不足を解消できるよう、生活面に関しても活用いただけるコンテンツを提供しています(要旨抜粋)」とある。豊富なコンテンツは幼児、小学生、中学生、高校生、保護者向けにカテゴリ分けされ、家庭学習支援のみならず、教育情報や季節ごとの特集、運動や

料理まで多彩だ。来春までの期間限定で、デジタル学習ドリル「ニューコース学習システム」が無料で利用できるサービスも提供している。オンラインを通じた週1回の担任コーチによるサポートで、環境変化による学習の遅れだけでなく、自ら学ぶ習慣を身につけて欲しいと考えている。学校再開後も継続して公開されているが、その本質は「子どもの今と向き合う」ことにあるだろう。子どもの成長を支える多面的なアプローチが、親にも「子育ての学び」を提供してくれるはずだ。



身近な世界にこそ、

気づきと驚きがあることを大切に

「5本の樹」野鳥 ケータイ図鑑

積水ハウス株式会社



2009年受賞作品でもある『「5本の樹」野鳥 ケータイ図鑑』は、庭や公園で自然観察を楽しむウェブサイトである。なかなか遠くへ行けない環境のなかでも家のそばの自然に改めて目を向けてみると、そこには意外なほどの動植物がいる。名前を知らなくても鳥や蝶、葉っぱの形や色で検索ができる点が使いやすさの秘密だ。同社は、「もともとこ

のサイトは、地域ごとの生態系に合った庭木を植え、野鳥や蝶が集まる環境をめざす『5本の樹計画』の考え方を知っていたためにできたものです。ぱっと見ただけで、鳥の特徴から写真で検索し、鳴き声まで確認できるというデジタルの良さを生かした図鑑です」と開発のきっかけを話す。「今年の長期臨時休校の時期に、子どもたちに庭

木や街路樹、公園など身近な自然に親しみ、先生や専門家がいなくても自然学習が楽しくできるように紹介しました。ゲーム感覚で、野鳥や蝶に詳しくなれ、さえずりに耳を傾けることも五感を研ぎ澄ますのにいいのではと考えました」。センス・オブ・ワンダーは身近な場所であればこそ。そんな気持ちを思い起こさせてくれるサイトである。



子ども自身が拓く

ICTの可能性に満ちた日常へ

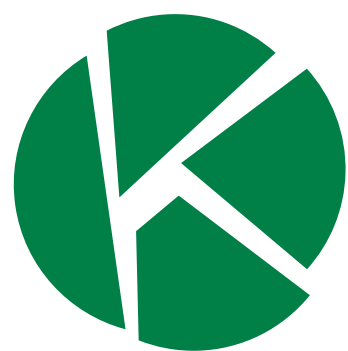
子ども向けプログラミングスクール
「F@IT Kids Club (ファイトキッズクラブ)」

株式会社 富士通ラーニングメディア



「F@IT Kids Club」は、休校が始まった3月から自宅で学べるプログラミングコンテンツを無償で公開した。担当者は、「この3月に臨時休校期間中の学習支援としてコンテンツを提供しました。これまでにない未曾有の事態に、スクールに通ってくれていた子どもたちもきっと不安になっているだろう、我々でできることがないか、という純粋な思いだけで提供を始めました。その後、コロナ禍での生活が日常となり、当スクールでもオンライン授業をスタートしましたが、子どもたちはこの授業を楽しく、前向きに

とらえてくれました。オンライン授業そのものが、プログラミングによる社会課題解決のひとつと子どもたちは理解していたのだと思います。プログラミングやICTの力が新しい社会づくりに役立つことを身をもって体験してくれました。その点はコロナがもたらした成果だったと感じています。コロナ禍において、オンライン・コミュニケーションは日常化した、子どもの視座や可能性はそこに留まることはないようだ。子どもたちの感性で、ここから新たなコミュニケーション社会が台頭する予感がした。



KIDS DESIGN
AWARD 2020

受賞作品

総評

今、社会は自然界からパンデミックや気候変動などのチャレンジを受けながら、戸惑い、足踏みをしているのでしょうか。今年の審査を通して時代の迷いのようなものを感じました。しかし、そういう時だからこそ、子どもたちの中にある未来の不安を打ち消し希望を呼び覚ますために、社会がしなければならないことがあるはずです。状況の変化に柔軟に対応しつつキッズデザインの目標を再確認し、果敢に提案し続けていきたいものです。

審査委員長 益田文和

最優秀賞

GRAND PRIZE 2020

内閣総理大臣賞

まごころ学園（福祉型障がい児入所施設）

福祉型障がい児入所施設 まごころ学園 / 一級建築士事務所 山下研究室 / 株式会社長建設計事務所 / 有限会社江尻建築構造設計事務所 / 株式会社設備工房アドイン / ハイランドパーク

審査番号
200049

新潟県見附市にある「まごころ学園」。知的障がいや育児放棄、虐待に遭った子どもたちが集まって暮らす福祉施設である。管理型を重視するあまり無機質な空間になりがちなこうした施設に対し、「家」を建てることを意識し、子どもたちにとっての「居場所」を作る建築を目指した。設計を担当した山下秀之さんは言う。「集落の街歩き、歩き回って、角を曲がって、面白いものがあって、ときめくような施設をつくりたいと考えました。中庭を囲む円環をなすヒダ状の建物はそれを実現したものです。施設からすれば運営がとて大変になるはずですが、学園長が理解をしてくださり、ヒダ状にもクランクがあって、隠れ家や身の置き所がたくさんある方がよいという考えを受け入れていただきました」。従来、破壊行為などを恐れ避けられてきた木質を全面に取り入れ、木材が持つ触感や香りが心地よい。感覚に敏感なこの施設の利用者にとって、五感に訴え、情緒を育む大切なアプローチになっている。居室や食堂、多目的ホール、作業室、廊下の踊り場も



©Tomu Kaneko

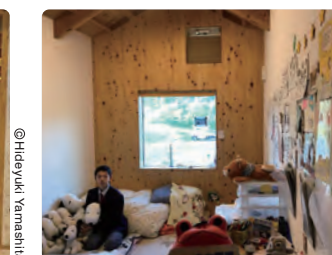
含め、連続する諸室はひとつの空間を構成しているが、特に目を引くのが壁の凹凸やスヌーズレンに設けられた穴だ。これらは子どもたちの隠れ場になる。離れながらも繋がっている空間、気配を感じる空間なのだ。長い廊下には雁行状に諸室が並び、「いろ壁」がパレット状に並び、各個室の入口には動物、植物などの「へや印」がある。山下さんは続ける。「子どもたちは穏やかになり、生

き生きとして、自分の家では好き勝手にやっているのですが、驚いたのはスタッフもとても楽しそうに見えたのです。働く側にも街歩きの面白さがあり、共に街に住む感覚になったのではないかと思います。子ども同士で、僕のセミの部屋に遊びにおいでよ、カブトムシの部屋へ遊びにいこうよ、といった会話もあるそうです。学園長によれば、子どもたちにこれをやってはダメ、と一方的に押し付けてしまうと、そこに固執することが多いそうだ。かまてあげることで、ほったらかしにするこの両輪が重要であり、ほったらかしのためにこういう空間が必要なのだという。「子どもたちに自分の自由になる家をつくってあげたかった。個室の中がポスターだらけ、ぬいぐるみ



©Hideyuki Yamashita

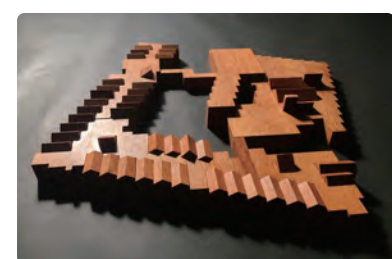
だらけという姿を見て嬉しかったです。自分を包んでくれる空間はどこなのか。それがあるのは家であり、設計者にはその場所をつくる役目があるのだと思いました。徹底した子ども目線の設計、ここに暮らす子どもたちの生活そのものをデザインした建築。障がい児入所施設の枠を超えた、普遍的な価値が込められた素晴らしい作品であることは間違いない。



©Hideyuki Yamashita

審査委員コメント：すべての側面で優れた空間、環境、景観を実現するとともに、利用者とその関係者、地域社会への多大な貢献が評価できる。知的障がい児施設では難しいとされた全面木質化を実現、アルコーブで集落を構成しており、小都市的な場の集合で社会性が育つ環境になる期待がある。

受賞理由：福祉型施設の課題点を精緻に分析し、空間デザインとして非常にうまくまとめている。管理型になりがちな施設に家づくり・コミュニティづくりの視点を採り入れ、様々な居場所をつくり、子どもたちが無理なく伸び伸びと過ごせる環境を生み出している。個室も完備され、居住環境も良く、カラーリングやサイン計画も秀逸だ。お気に入りの場所を見つけることで心穏やかに過ごす時間が提供されるという、家族と家の在り方の縮図のような施設であり、ここで育つ子どもたちの良い思い出となるような、子どもが主役という関係者の思いが建築として表現されており、見事である。



©Hideyuki Yamashita

私たちに
できること

FUJITSU



未来の地球の姿、あなたは描いていますか？

資源、エネルギーの不足、食糧の供給問題、気候変動、自然災害の増加、
生物多様性の損失など、いま私たちは多くの課題に直面しています。
こうした課題の解決に、富士通は ICT が重要な役割を果たすべきと考えます。

豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供するために。
私たちは、最先端テクノロジーと創造力で社会課題の解決に取り組んでいきます。

その感性が 未来をつくる。



できると



130種類の
バラエティ
豊かな問題



KIDS DESIGN
AWARD 2020

できると

アナログとデジタルの特長を組み合わせた3つの教材(子ども用「ワークえほん」「ワークアプリ」、保護者用「おうえんアプリ」)を使い、親子二人三脚で楽しく学ぶ幼児向け家庭学習サービス

<第14回キッズデザイン賞「子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門」受賞>

<https://dekiroute.com/>

詳しくはこちら



安心なこと。
使いやすいこと。
そして、心地よいこと。

積水ハウスの「スマートユニバーサルデザイン」は、安全・安心で使いやすいだけでなく、なにげなく触れたときの感覚やちょっとした操作性、ふと目にしたときの美しさなど、日常の暮らしにおける“心地よさ”を大切にしています。



積水ハウスのキッズでざいん「コドモイドコロ」は、子どものための「スマートユニバーサルデザイン」をふんだんに取り入れた家づくりを提案します。

積水ハウスのキッズでざいん
コドモイドコロ

積水ハウスは2020年「第14回キッズデザイン賞」を2部門6点で受賞。
14年連続での受賞となりました。



子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門

●積水ハウスのキッズでざいん コドモイドコロ

子どもの生きる力を育む住まいづくりとして、子どもの成長に役立つたくさんの「居どころ」づくりと、安全・安心、自主性を考えたスマートユニバーサルデザインを追求した生活提案「コドモイドコロ」に、新たな課題を解決する「ベビーのイドコロ」「疲れにくい勉強環境」を追加。カタログやリーフレットを使い「ベビー期」「キッズ期」の子どもを育てる親の疑問・悩みを解決する住まい提案を紹介しています。



ベビー期の健やかな育ちを「ベビーのイドコロ」

●新しい交流の場「サードプレイス」をコンセプトとした
＜大網白里市子育て交流センター＞※1

子どもたちを産み育てやすいデザイン部門

●関東住まいの夢工場 小林さんち。

子育てファミリーの「わが家らしい家づくり」をサポートし、幸せな暮らし提案とコミュニケーションの仕掛けを設けた関東住まいの夢工場「小林さんち。」をリニューアル。10年後の子育てファミリーにもフィットする提案や、まるでそこで実際に生活しているかのような細かいスタイリングで、見て伝わるリアルな暮らしが演出が「共感する暮らし」を発見しやすい仕掛けとなっています。



「共感する暮らし」が見つけられる小林さんち。

●子育て世帯の住環境提案 積水ハウスの賃貸住宅「シャームゼン」に在宅ワークしやすい環境を
●共生型複合施設＜Open Village ノキタ＞※2
●「子どもOS」冊子＜それ、こどもOSです＞※3

※1 千葉県大網白里市との共同応募。大網白里市の設計・施工一括発注方式による子育て交流センター整備事業の公募型プロポーザル 設計・施工：積水ハウス株式会社 ※2 株式会社 AiNest（国際航業株式会社100%出資会社）との共同応募。事業計画・施設運営：株式会社 AiNest / 建築計画・設計・施工：積水ハウス株式会社 ※3 大阪府、株式会社ジャックエツ、コクヨ株式会社、特定非営利活動法人GIS 総合研究所との共同応募



私たちは

子どもたちの健やかな育ちを支える

知と感性にあふれた豊かな価値を創造し

社会に貢献します

株式会社フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込6-14-9

フレーベル館

<https://www.froebel-kan.co.jp>

子どもを育む デザインの チカラ

キッズデザインはユニバーサルデザインの究極のカタチ
キッズデザインはサステナブルデザインの大いなるはじまり
そのために今できること。共につくっていくもの。
私たちはキッズデザインを応援しています。

